



# 地域医療通信

⑩

西脇市多可郡医師会 地域医療検討会 平成 21 年 12 月発行

＜グランドオープンフェスタ＞フェスタでの会の企画「先生と一緒にあそぼう！！」のコーナーでは小児科の先生全員が大集合と看護師さんの参加もあり、いつもと違う先生の姿



に子供たちは大喜びでした。はじめは少し少ないかな?と心配しましたが、5人の先生方が全員着ぐるみで登場されたのでギャラリーもどんどん増えて終わるころにはフロアがいっぱいになりました。和気あいあいとしていても良かったですと、守る会のお母さんからメールをいただきました。実際に着ぐるみを着て奮闘！?していただきました。(写真右から藤田

・許・山中・村上・佐伯各先生と看護師さん) その藤田先生からの寄稿を掲載します。

＜グランドオープンフェスタに参加して＞ 11月29日、待ちに待ったその日がやってきた。一番の懸念であった天候も八幡様のお計らいで晴天となった。多少風がきつく気温も低かったが、フェスタを思う8千人の市民の熱意で会場は盛り上がった。詳細は新聞記事を読んでほしい。ここに綴ったのは私の個人的な感想であることを言い添えておく。式典は10時開始であったが、私は9時に来場し気持ちを整えた。既に多くの方が準備に取り組んでおられ、フェスタにかける意気込みを感じたのは私だけではないだろう。出会うのは市長をはじめ関係者たちのこれまでに費やした苦労を吹き飛ばしてしまうかのような笑顔ばかり。式典は、五臓六腑に心地よく響く祝い太鼓に引き続き、市長の挨拶で始まった。小児医療を守る会、商業連合会、医師会へのねぎらいと感謝が述べられ、来賓者には西脇住民の問題意識の高さが伝えられた。また神戸大学医学部長から現在の医療情勢についての辛口の挨拶がなされたが、それとて西脇病院を応援する以外の意味はなかったと捉えた。私の斜め前に座っておられた神戸大学麻酔科教授も、2年後くらいには麻酔医を確実に送れるだろうと約束されていた。式典終了後病院内で、小児科医5名(許・佐伯・山中・村上先生と私)は動物の着ぐるみを着て、守る会のお母さんたちとともに来場された子どもたちと楽しい時間を過ごした。屋外にでると、商業連合会のお世話で設置された移動遊園地から子どもたちの嬌声が届いてきた。舞台ではよさこい踊りやヒップポップダンスに興ずる若者たちが乱舞していた。そして病院屋上にはけたたましいプロペラ音を響かして病院へりが舞い降りた。思い描いていた「若者と先端医療の町」という未来像が目の前にあらわれ、まるで白昼夢をみているような錯覚を覚えた。超えねばならない壁が多々あることは認めよう。でも20年先50年先の西脇の未来を信じてもう一層がんばろうではないかと、自分の気持ちを奮い立たせている。

＜北播磨の小児医療情勢について＞ 今、北播磨地区の小児医療はとても危うい状況にあり、今後北播磨総合病院が出来上がっても改善は望めません。なぜならば、小児科医不足が解消されるどころか、かえって医師不足に拍車をかける事態が起きているからなのです。そのことについてお話しします。全国的な小児科医の不足は神戸市でも同じです。しかし神戸

市は小児救急の充実を図るため、多額のお金を神戸大学に寄付し、新たに神戸大学小児科内に救急を考えるための講座を開設しました。これを寄付講座といいます。昔の大学ではこんなことはできませんでしたが、現在の独立法人化した国立大学では企業などの寄付で新たに講座をつくることのできるのです。つまり神戸大学小児科が神戸市の小児救急を担う約束をしたということです。具体的には、神戸大学小児科からの人員派遣で、ハット神戸で神戸市の小児救急を行い、入院は近くの神戸赤十字病院で行うようになります。（ハット神戸：神戸市があらたな東神戸の中心にと考えている場所です）兵庫県内では、神戸市以外にも古川や姫路や北播磨などで夜間・休日診療を行っています。そこへは地元の開業医だけでなく神戸大学の医師にも出務してもらっています。大学にはあり余るほどの医師がいるわけではありませんので、今後神戸市の救急が充実すればするほど、他の地域の小児救急が壊れていくことになるのです。そんな現実が目前に迫っています。現在、北播磨の小児救急の中心は小野市民病院で、勤務医は8名います。病気や個人的な事情で現在働けない医師がおり、実働は4名のみです。開業医もできる範囲で行っておりますが、マンパワー不足は否めません。しかも神戸大学の北播磨地区への医師派遣の順位は低いのです。北播磨総合病院計画それは一見魅力的なお話ですが、神戸大学小児科にはそこに医師を送る計画はありません。もちろん西脇病院にも送る計画はありません。それでは西脇はどうすればよいのでしょうか。難しい問題ですが、若い医師が勤務したくなる病院を目指すことと並列して、丹波地区の病院とも連携していくことも考えねばならないと思っています。ピンチはチャンスとなるかどうかの瀬戸際です。 文責 藤田

＜第11回救急医療フォーラム＞救急車を呼ぶ前に！来る前に！をテーマにし、調度グ



ランドオープンの日には医療フォーラムが開催された。私は守る会・村井さんの発表のサポートに神戸に行ってきました。村井さんからも寄稿していただいた。

11月29日、兵庫県救急医療フォーラム「救急車を呼ぶ前に！来る前に！」が行われシンポジストとして参加してきました。基調講演では兵庫医科大学小児科学の服部教授が「救急医療の望ましい方向は、救急になる前の『予防』に力を入れること。特に不慮の事故死やケガが多い子どもは、安全に意識レベルが低い日本社会全体で向上に努めれば多くを防ぐことができる！」と訴えておられたのが印象的でした。シンポジウムでは住民ができることとしてこれまでの活動を発表しました。発表後、服部教授からは「みなさんの活動に感銘し、胸一杯となりました。」とお声をかけていただきました。今回、救急の現場で活躍されているお医者さん、看護師さん、消防士さんの話を聞く中で、私達が勉強会で伝えている内容は、医療・救急に関係する方々と住民との架け橋として、これからも自信を持って人にお伝えしていき

検討会12月は中止。次回は1月13日（水曜）7時半から西脇区会館で。

お尋ねは、西脇市多可郡医師会 <Tel 0795-23-3402>

メール会員の登録は：tomihara@tomihara.com へ。 情報発信してます。

